

80
会報

郷音

発行所 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-4-3111
福祉財団ビル5F
TEL 03-6907-2253 37
FAX 03-6907-2915
編集人 松本 末男
発行人 山東 昭子
(題字 山東昭子会長)

会長あいさし

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会会長
山東 昭子



「響き」の会報も無事80号を迎えることが出来ました。これもいつもご支援してくださる皆様のおかげだと感謝申し上げます。

コロナ禍の中で昨年の前半は全く実施が出来ませんでした。今年度は、1回目の読字力検定に始まり、全国聾学校絵画展、全国聾学校作文コンクールなどを無事に開催することが出来ました。たくさんの方の作品の応募があり、どれも力作揃いでした。絵画展は、全日本聾教育研究大会が島根県で開催されますが、会場から大会のホームページを通してリモートで結果を発信しました。また、作文コンクールは作品集を作成し、皆様にお届けしたいと思っています。

今後の予定については未だ思うに任せないことも多くあります。まず、「聴覚障害児を育てたお母さんをたたる会」は、開催はいたしません。しかし、12月以降に増えると思われる感染者の動向の見通しが立たないため、憲政記念館にての多くのお母様方やご家族、関係者を一堂に集めるの式典は感染拡大を回避するために中止といたしました。また、毎年会場で行われていた作文コンクールの最優秀者の発表も賞状と表彰盾の寄贈

のみとさせていただくことになりました。次に、毎年お世話になっている公益財団法人JKA競輪共益資金の補助事業であるFM補聴システム無償貸与についてお知らせいたします。今年度からデジタルワイヤレス補聴援助システムに切り替えて実施させていただきます。全国から多くの希望者が集まりました。審査及び抽選の結果13名の方に無事貸与が出来ました。全員の方に貸与出来ず申し訳なく思っています。来年度も継続したいと考えていますので、その時にはどうぞ、また応募をしてください。

令和三年度

理事会・評議員会報告

理事会 令和三年六月七日みなし決議
評議員会 令和三年六月二十九日みなし決議

※ 新型コロナウイルスの感染拡大に伴いみなし決議を行なった。

① 令和二年度事業報告及び事業報告の附属明細書に関する件
理事会において承認され、評議員会で報告がなされた。

② 令和二年度収支決算に関する件
収支決算報告、監査報告・財務諸表が理事会、評議員会で承認決議された。

③ 令和三年度公益財団法人JKA補助事業の実施について承認決議された。

④ 次期役員会の理事会推薦名簿が承認決議された。
⑤ 評議員候補者推薦(案)が承認された。

令和三年度 事業計画

【補助事業】公益財団法人JKA競輪収益助成事業

① FM補聴システム無償貸与事業
令和三年度は、昨年度までの機器の製作が無くなったため人工内耳も活用出来る新しい機種に変更した。値段が高くなり、24台から13台と少なくなった。

【一般事業】

① 事業案内
全国聾学校に協会ホームページ上のリンクを通して事業案内(実施要項)を提示。このリンクからダウンロードして各学校・機関は事業案内を入手する。六月の全国聾学校長会総会では、リモートのため紙面で事業説明を行った。

② 「第四十四回聴覚障害児を育てたお母さんをたたる会」
今年度の「聴覚障害児を育てたお母さんをたたる会」は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、一つの会場で一堂に会する形を避け、式典と発表を行わず、表彰の楯を各お母さん方にお届けすることにしました。楯の発送は十二月の予定です。各校、各地域からのお母さんの推薦は予定通り九月三十日(水)まででした

後援：文部科学省、厚生労働省、東京都教育委員会、全国聾学校長会、全国聾学校PTA連合会

③ 第二十五回全国聾学校絵画展
審査会：令和三年八月九日
展覧会：令和三年十月十四日(木)・十五日(金)

全日本聾教育研究大会(島根大会)のホームページ上で実施

表彰式：最優秀賞・文部科学大臣賞受賞者在籍校に会長が赴いて実施予定
後援：文部科学省、全国聾学校長会、全国聾学校PTA連合会

④ 第三十三回全国聾学校合奏コンクール
課題曲…自由

審査会…令和三年十一月四日(一次)、令和四年一月五日(二次)

表彰式…金賞・文部科学大臣賞受賞校に会長が赴いて実施予定

後援…文部科学省、東京都教育委員会、全国聾学校長会、全国聾学校PTA連合会

⑤ 第十六回全国聾学校作文コンクール
テーマ…自由

審査会…第一次 令和三年八月二十一日
第二次 令和三年九月四日

調査研究委員会…応募作品の分析研究調査
表彰式…最優秀賞・文部科学大臣賞受賞者在籍校に会長が赴いて実施予定

共催…全国聾学校長会
後援…文部科学省、東京都教育委員会、全国聾学校PTA連合会

⑥ 読字力検定試験 年間三回実施

⑦ 聴覚障害教育関係資料収集事業

⑧ 会報「響き」の発行 年二回

⑨ 募金活動(ハマナス募金) 目標額千四百万円

⑩ 法律相談(インターネット等による法律相談)

⑪ 専門図書、ビデオ、DVDの紹介・頒布

⑫ 協会ホームページの公開・更新

⑬ 全日本聾教育研究大会への助成

⑭ 聴覚障害乳幼児教育相談委員会 関連業務の継続

令和三年度 役員名簿 (敬称略)

(会長) 山東昭子 (副会長) 森伸夫、浅井健二

(専務理事) 松本末男
(常務理事) 木内弘司、齋藤佐和、藤本登、仲田邦男

(理事) 阿部きみよ、今井絵理子、桑山哲夫、小林明、田中美郷、辻村哲夫、中村喜久子、平口洋、山田春雄

(監事) 関根正浩、本間通義

評議員

荒崎勝美、荒川早月、石川庄六、植草喜代治、大沼直紀、大場利秋、堅田明義、加藤聖治、金子昌夫、小島藤昭、鈴木茂樹、関良規、竹内美和子、武田智彦、武田直丈、田中真由美、鄭仁豪、戸田典尚、野崎正史、根本匡史、堀米泰晴、廣田栄子、村野一臣、山勝彦、四日市章、篠崎利之

事務局
(事務局長) 大石規朗
(事務主事) 小針丈幸

なお、長きにわたり専務理事としてお勤めいただいた櫻井博氏、評議員としてお勤めいただいた小俣昌道氏は、お亡くなり退任されました。また当協会の評議員をお勤め頂いた石橋大吾氏、横田志津氏は役職が変更になり退任され、大塚明敏氏は、この度健康上の理由により退任されました。

新任の挨拶

今年度より新しくなられた評議委員の紹介



全国聾学校長会会長 荒川早月様
初めまして。全国聾学校長会会長、東京都立中央ろう学校長の荒川早月と申します。常日頃より、貴会の諸事業を通じて、全校の聾学校に通う幼児・児童・生徒たちに多くの可能性を与えていただいておりますことを、心から感謝申し上げます。

この度六月十日より貴会評議員として就任いたしました。皆様の御指導を仰ぎながら、精一杯務めたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私は、教員としてのスタートが東京都立立川ろう学校で、その後、東京都立大塚ろう学校に20年間務めておりました。御縁があつて現在は、東京都立中央ろう学校で校長を務めております。長

きにわたり、ろう学校の子供たち、保護者の皆様、そして多くの諸先輩方から様々なことを学ばせていただきました。今は少しでも恩返しができるかと誠心誠意職務に励んでおります。

現在は新型コロナウイルス感染症の不安の中で、試行錯誤しながら学校経営を行っております。これまで経験したことのない事柄ばかりのため、学校現場では柔軟な発想と知識と技術に裏付けられた新たな学習指導の方法を模索しているところです。国の施策もあり、「CO2環境は全国で整いつつあります。新たな教育を求められる一方で感じることは、これまでに着実に積み重ねられてきた聴覚障害教育の神髄を忘れてはならないということです。長い歴史のある聴覚障害教育の専門性とSociety 5.0という新しい時代の恩恵とをうまく融合させて、聴覚障害のある子供たちのために一杯尽力することが、学校現場で今求められていることだと思っております。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

全国ろう学校PTA連合会顧問 植草喜代治



この度、本協会の評議員をお引き受けすることになりました。植草喜代治と申します。私は、現在全国ろう学校PTA連合会の顧問を務めさせて頂いております。

実は、この評議員をお引き受けするのは二回目となります。一回目は、平成二十九・三十年代全国ろう学校PTA連合会の会長の時です。

私の子どもは、生後間もなく中等度難聴と診断されました。一才の時に筑波大学附属聴覚特別支援学校(これ以後附属と表記させて頂きます。)の乳幼相談でお世話になり、以来幼稚部・小学部・中学部・高等部と進ませて頂きました。中学部の頃、縁あつてPTAの仕事をお手伝いさせて頂くことになり、平成二十五年より副会長、二十七年度から三十年度までは会長を務めさせて頂きました。本協会主催の「聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」には、平成二十五年より

出席させて頂きました。この会では、附属より多くのお母さん方が表彰されました。また、子供たちも作文コンクールや絵画展、合奏コンクールなどに多数出品・出場させて頂き、多くの賞を頂きました。本協会の素晴らしい活動にPTAとしていつも感謝しております。

そして、この度は聴覚障害児を持つ親の立場からということで再び評議員という大切な役割を引き受けすることとなりました。微力ではありませんが、この意義ある活動に力を尽くして参りたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

全国ろう学校PTA連合会会長 関 良規様



この度、全国ろう学校PTA連合会の会長という立場から本協会の評議員を務めます。関良規と申します。聴覚障害を持つ息子が通う筑波大学附属聴覚特別支援学校のPTA会長でもあり、普段は一父親であり一般の会社員です。

全国聾学校の作文コンクール、絵画展、合奏コンクール、聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会などにおけるお手伝いがあると聞いております。微力ながら精一杯務めさせていただきます。を通じて全国の聴覚障害を持ちながら勉学に励む子どもたちの成長に貢献して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、2019年に始まった新型コロナウイルス感染症の流行拡大が世界中に広がり、日本では過去最大級となった第五波が少し落ち着きを見せていますが、さらにやっかいな第六波の懸念も聞こえるところです。子どもたちの通う学校は、安心・安全第一で運営していただいています。これに異論はありませんが、成長の早い子どもたちにとって、かけがえのない今において、失われていくものも大変多いと感じております。作文・絵画・合奏、本協会事業に関わりのある活動なども優先順位が下がりがちではないかと思うところもあり、コロナ禍における活動について一層の工夫

が課題となつていくことでしょう。関係者の皆様のお話なども伺いながら、新しい課題の解決のお手伝いが出来れば幸いです。

最後に誰一人取り残されることなくすべての子供たちが明るく楽しくそして元気に成長することを祈念しご挨拶とさせていただきます。

元筑波技術大学教授 根本匡文



この度、創立以来九十年という長い歴史を持つ聴覚障害者教育福祉協会の評議員の仕事をしていただくことになりました。

私の聴覚障害教育との関りも学生時代を含めると六十年になるうとしています。その間、聾学校で乳幼・幼・小・中の子どもたちの担当もしましたが、長い期間携わったのは高等部と大学段階の教育です。

昭和四十年代後半から五十年代の頃は高等部の学級担任をしました。生徒をなんとか進学させようと思つて大学に相談を持ち掛けても、受験さえ認めてもらえないという経験をたくさんしました。それが今では、聴覚障害者のための高等教育機関として筑波技術大学が作られ、大学院教育まで行われています。一般の大学への進学もあたり前になり、多くの聴覚障害学生がノートタイクや手話通訳などの充実した情報保障を受けながら学んでいます。

現在は医師、弁護士、研究者、聾学校の管理職教員、建築家、デザイナーなどの専門的な職業に就く人たちが増えてきました。「多様性と調和」をコンセプトとした先日のパラリンピック開閉式では、多くの聴覚障害者がパフォーマンスの出演者やテレビ放送の手話通訳者として活躍していました。

聴覚障害者はたかさんの「可能性」を持っています。その「可能性」をもっともつと広げ実現させていくために、これからも微力を尽くして行きたいと思つています。よろしくお願ひいたします。

全日本ろうあ連盟理事 堀米泰晴



この度評議員に就任いたしました、一般財団法人全日本ろうあ連盟の堀米泰晴です。

実は、私の両親は平成19年の「聴覚障害児を育てたお母さん」をたたえる「会」に表彰されたことがあります。今回、この90年の長きにわたる聴覚障害者の教育に携わってこられた貴協会の一員として活動ができることに、勝手ながら貴協会との深い関わりを改めて感じているところです。

ここ数年の聴覚障害児の教育は、特に乳幼児の早期支援を中心に大きく変化しようとしています。きこえないお子さんが生まれた際に、保護者の方々はたくさん悩みを抱え医療機関や行政窓口を訪れます。しかし、窓口の対応が一元化していない、地域による格差もあり偏った情報しか得ることができないなど、子育てに必要な情報を公平に提供されない課題があります。この課題を解消するために、厚生労働省は、保健・医療・福祉・教育関係者が連携して保護者が安心して相談ができる早期支援体制を検討しています。一刻も早くこの体制が全国に展開され、保護者が安心して相談ができるよう願つてやみません。

この夏、私も全日本ろうあ連盟は保護者向けパンフレット「きこえない・きこえにくい子どもを持つパパ・ママへ」を作成しました。私たちが大切にする手話言語やロールモデルの存在を含めた多様な選択肢を示し、保護者に対して、きこえない子どもの子育てに向けたヒントを得ていただくこと、早い時期に手話言語やろう学校という選択肢を知っていただき子どもを育つ道を豊かにすることを目的としています。このパンフレットを行政、医療機関等を通して、多くの保護者に手に取っていただけるよう活動を行つているところです。皆さまにも、是非このパンフレットをご覧ください。一緒に未来を担うきこえない・きこえにくい子どもたちの健やかな成長を支えていけたらと思つております。

最後に、きこえる人もきこえない人も共に生きることが出来る「共生社会」を目指し、日本語も手話言語も共存できる社会の実現に向けて、皆さまとともに活動に邁進していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

協会の事業

●第一回読字力検定試験

本年六月実施の読字力検定試験の結果は、左記の通りでした。第二回(十月)、第三回(二月)でも、頑張ってください。

- ・受験学校数 五十八校
- ・受験者総数 八九五名
- ・合格者 五五一名
- ・合格証授与者数 二〇五名
- 九級：五七名 八級：九十名 七級：一一五名
- 六級：六二名 五級：五七名 四級：六四名
- 三級：四六名 二級：三九名 一級：二四名
- 特一級：五名

●第二十五回全国聾学校絵画展

今年度の審査会は八月九日(土)に行われました。応募学校数三十校、応募作品総数四百二十三点でした。内訳は幼稚部十三校九十七点・小学部二十二校・二百三点、中学部十七校・七十一名、高等部・専攻科十五校・五十二点でした。今年度の最優秀賞、優秀作品者は、次の十六名です。おめでとうございます。

最優秀賞(二点)並びに優秀賞受賞作品(十四点)は、令和三年度第五十五回全日本聾教育研究大会(島根大会)において大会ホームページに公開されました。

作品を応募した幼児・児童・生徒全員に参加賞(クリアファイル)、優秀賞受賞者(十六名)には絵の具メーカー(株)クサカベ提供の「絵の具セット」を副賞として贈りました。

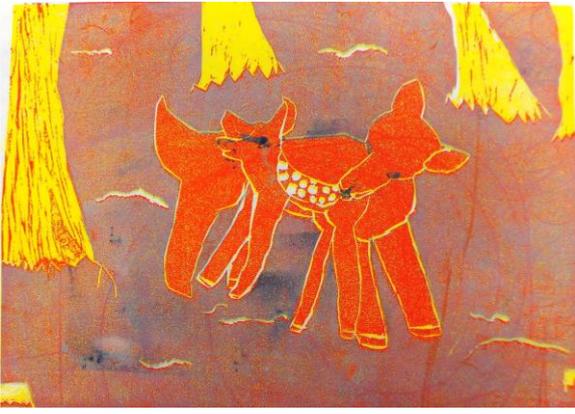
最優秀賞(中学部、高等部、専攻科部門)

- ・文部科学大臣賞
- ・新潟県立聾学校 高等部二年 五十嵐 莉奈
- 「古えの海」



最優秀賞(幼稚部、小学部部門)

- ・長野県長野ろう学校 小学部六年 田中海
- 「お母さんといっしょ」



優秀賞

- ・水戸聾学校 幼稚部五歳 栗林 和奏
- 「だーいすき!」
- ・こばと聴覚特別支援学校 幼稚部五歳 灰野 慎之介
- 「またあそびにきてね!」
- ・熊本聾学校 幼稚部五歳 福田 羽希
- 「ざりがにみつけた」
- ・神戸聴覚特別支援学校 小学部三年 君野 結菜
- 「夏の虫」
- ・大塚ろう学校 小学部四年 志田 佑哉
- 「車」
- ・葛飾ろう学校 小学部五年 池田 結香
- 「夜空を走る電車」
- ・葛飾ろう学校 小学部六年 金田 奏
- 「学校からの風景」
- ・沼津聴覚特別支援学校 中学部一年 瀬角 羽菜
- 「海を駆ける大魚」
- ・岡崎聾学校 中学部二年 吉田 大悟
- 「けむしの王様」
- ・神戸聴覚特別支援学校 中学部二年 岩木 大地
- 「世界の動物を守る!」
- ・浜田ろう学校 中学部二年 櫻井 結衣菜
- 「花と花びん」
- ・葛飾ろう学校 中学部三年 阿部 寿邪
- 「三日月と鹿」
- ・神戸聴覚特別支援学校 高等部三年 大貫 雄也
- 「オーロラワールド」
- ・浜田ろう学校 高等部三年 朝付 聖士
- 「花を見るすずめ」

全国聾学校絵画展審査総評

審査委員長 矢澤健太郎(新制作展会員)

二年ぶりに開催することができた絵画展の審査、

皆さんの作品に出合えることをとても楽しみにしながら審査会場へと向かいました。会場にはボランティアの方々により床いっぱい作品が並べられています。年齢順に下の学年の皆さんの作品から審査が始まるいつものやり方でスタートです。

二年ぶりということもあつてか、いつもに増してどの作品も生き生きとした表現・色使いに感じられて圧倒されます。審査員もお互いに、「いい作品がたくさん来たなー!」「どの絵も良くて選ぶのが大変だなー!」と言いながらその中でも目を引く作品、気になる作品を選んでいきます。このようにして今年の優秀作品候補が集まってきました。ここからは審査員皆で話し合いながら優秀作品を決定するのですが、良い作品ばかりなのでつらい作業です。

そんな中から最優秀賞二点と十四点の優秀作品が選ばれました。そして今年の文部科学大臣賞は高校二年の五十嵐莉奈さんが描いた「古えの海」に決まりました。画面全体にウツボやサメ、タツノオトシゴなど様々な魚が克明に描かれた見ごたえのある作品で、色彩も美しく描写力も確かなものです。深海魚のような魚もいて太古の時代と現在の交錯した空想上の世界かもしれません。もう一人の最優秀賞は小学六年、田中海さんの「お母さんといっしょに」です。森の中に鹿の親子が仲良く寄り添っています。版画表現の特徴を生かした平面的な表現です。黄色と朱色の組み合わせが美しく、彫刻刀の彫跡を生かした木の幹や鹿の親子を浮き立たせる黄色の輪郭などとても良い感じ

です。見る人を幸せな気持ちにしてくれる絵です。他の優秀賞の作品も魅力的な作品ばかりでした。栗林和奏さんの「だーいすき」は不思議な色使いの絵です。表情が良いですね。灰野慎之介さんの「またあそびにきてね」は花の咲く野原に飛ぶ蝶が優しい色彩で描かれています。福田羽希さんの「ざりがにみつけた」は水の中に潜んでいるザリガニの表情やしぐさがよくわかり、緑色の水が池水の様子もよく伝えてくれると思います。君野結菜さんの「夏の虫」は太陽に向かってぐいぐいと伸びる夏草とそこに潜む虫が表現されていて生命力

にあふれています。志田佑哉さんの「車」はとてもカラフルな色彩で道や車が描かれているところが魅力です。池田結香さんの「夜空を走る電車」は版画の作品で、大胆な構図と夜の色が素敵です。金田奏さんの「学校からの風景」は何気なく見過ごしてしまいがちな風景を的確な線とわずかな色彩で実に良い絵に仕上げられています。瀬角羽菜さんの「海を駆ける大魚」は描写とは違ったカラーージュ的な表現が効果的で大魚が餌の獲物を捕らえる場面は迫力満点です。吉田大悟さんの「けむしの王様」はユーモラスな抽象表現です。パステルのような素材のざつくりとした塗り方が良い効果になっています。岩木大地さんの「世界の動物を守る!」は自然破壊で住処を追われ滅びそうな動物

たちに優しい目を向けた作品で、少し寂し気な絵のトーンに強いメッセージ性を感じます。櫻井結衣菜さんの「花と花びん」は画面全体に気を配って丁寧な花を表現しています。花瓶の置かれたテーブルの雰囲気まで伝わってきます。阿部寿邪さんの「三日月と鹿」は文学的な世界観と静寂が伝わってきます。計算された構図と色彩が際立っていて絵の具の扱いも丁寧です。大貫雄也さんの「オーロラワールド」は線の集積で形を表していく技法で描かれた抽象作品です。浮かび上がってくる幾何形体的な形の構成が面白い作品です。朝付聖士さんの「花を見るすずめ」極めて高い技術を持った人の作品といえます。観察する力、絵の具の扱いなど高校生のレベルを超えていてすごいな!と感じました。

惜しくも最終選考に残らなかった方々の作品も本当に良い作品ばかりでした。現場の先生方も伝統的なテーマに加えて様々な新しい表現などを工夫していただいで毎年素晴らしい作品をお寄せいただき本当に感謝申し上げます。来年の絵画展も各校それぞれの特色ある作品が多く寄せられることを期待したいと思います。

審査委員

矢澤健太郎、錦織重治、木脇康一
竹内一、大石視朗

●第十六回全国聾学校作文コンクール

全国聾学校作文コンクール第一次審査は、八月二十一日(土)に、第二次審査は九月四日(土)に行われました。応募作品総数は一四一点でした。内訳は小学部(絵日記・日記十七点を含めて)五四点、中学部三八点、高等部四九点でした。今年度の入賞者は次の通りです。

金賞・文部科学大臣賞

愛知県立千種聾学校

小学部三年 福田 優菜

金賞・全国聾学校長会会長賞

筑波大学附属聴覚特別支援学校

高等部三年 権田 陽向

金賞・聴覚障害者教育福祉協会会長賞

静岡県立沼津聴覚特別支援学校

小学部六年 米丸 穂乃香

銀賞

奥岡 智輝(千種校) 岡部 未怜(群馬校)

大澤 未来(群馬校) 岡田 直樹(岡崎校)

塚根 みづな(都・中央校)

若木 満希人(筑波校)

銅賞

永木 慶吾(千種校) 富岡 水緒(立川校)

高橋 紫(群馬校) 田上 碧(熊本校)

釣 泰輔(筑波校) 青木 優河(都・中央校)

ハマナス募金

当協会が実施しております事業は、公益財団法人JKA競輪公益資金の補助をはじめとして、皆様方からのご寄附(ハマナス募金)により実施しています。

皆様方のご理解とご支援に深く感謝いたしております。

今年度も計画事業の適正な実施に努めているところでございますが、昨今の社会情勢から事業資

金の確保が大変厳しい状況にあります。つきましては、皆様方より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ハマナス募金のお振込みは、郵便振替もしくは銀行振込にてお願いいたします。

郵便振替口座 00110・9・134877

名義 聴覚障害者教育福祉協会

銀行振込 みずほ銀行江戸川橋支店

普通口座 1615748

名義 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会

会長 山東昭子

当協会は、平成二十九年三月三十日内閣府（内閣総理大臣）より税額控除に係る証明を受理しております。

令和三年四月一日から令和三年十月末日までの間に、次の皆様方よりご寄附をお寄せいただきました。誠に有難うございました。

（敬称略）

（株）日健総本社（森伸夫）、（株）テアトルアカデミー（浅井健二）、東京ホールディングス（浅井健二）、西郷ソーラー発電（浅井健二）、木内弘司、近畿調査（武健一）、田中美郷、桑山哲夫、全国難聴児を持つ親の会、阿部きみよ、関根正浩、辻村哲夫、宮野忠夫、荒崎勝美、神辺洋吾、西本徹、長野ろう学校、北海道高等聾学校教育振興会、ライシヤワ・クレーマ学園、櫻井あつ子、谷口昭子、青森県ことばと心を育む会、草薙進朗、日本補聴器販売店協会、中村喜久子、新潟県難聴児を持つ親の会、（株）リオン、（株）リオン本社

令和三年度

公益財団法人 JKA 競輪公益資金による

補助事業実施報告

一、事業名

令和三年度障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業

二、事業実施内容

ワイヤレス補聴援助システムの

購入・無償貸与

送信機・受信機十三セット

全国聾学校・聴覚特別支援学校、小学校、中学校、難聴幼児通園施設に在籍、在園する幼児・児童・生徒の家庭に貸与しました。

慶弔

お悔み

協会専務理事 櫻井

博氏

三月二十九日ご逝去 享年七十三歳

櫻井博氏は、七年間本協会に専務理事としてお仕事をしてくださりました。長きにわたって多くの事業を円滑に進めるためにご尽力をいただきました。時々、通勤電車の中で、似ている体格の方を見ると、こうして通勤していただいていたことを思い出します。未だに信じられない気持ちでいます。温かい人柄の先生を思い出しながら心よりご冥福をお祈りします。ここに謹んでご報告申し上げます。

編集後記

会報「響き」八十号をお届けします。本協会の「響き」は、昭和三十八年八月に第一号が発行されて、広く聴覚障害教育の啓発活動の一環として、おもに指導の手引きを中心に掲載されてきました。情報化の今の時代とは違って、貴重な情報誌となっていたようです。そんな長い歴史の中で、八十号を迎えたことになりました。

令和三年の前半の事業についてお伝えします。今年度は第一回目の読字力検定に始まり、昨年度開催が出来なかった第二十五回全国聾学校絵画展や第十六回全国聾学校作文コンクールも開催することが出来ました。実施にあたっては、会議の形態や方法の見直し等様々な試行錯誤が行われましたがなんとか実現出来ました。第三十三回今後合奏コンクールも開催の方向で準備を進めています。

しかし、「第四十四回聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」は、昨年同様に多くの人が一堂に会するのは避けた方が良くということで、式典・発表会は実施せず、表彰楯とリーフレットの寄贈のみを行う予定です。

次号の実施にあたって、全国の聾学校、関係機関、関係団体等のご理解ご協力、ご支援を頂いております。これもひとえに皆様のおかげです。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

